

## 三越創業350周年記念特集 日本の洋館

清水一郎さん(昭和48年入社、幹事)

2016年、日本橋三越本店の建物が国指定の重要文化財に指定されました。隣の三井本館も1998年に重要文化財に指定されています。明治、大正、昭和に建てられた貴重な建物が全国各地に残っています。

このポスターは明治43年の「東洋の美女が世界に捧ぐる三越呉服店」というタイトルのポスターで、大正3年に落成した新館の模型を手にしています。この建物は明治44年に工事が着工されているので最後の明治建築ともいえます。



2023年は「明治155年」にあたります。たった155年前にはチョンマゲ姿の侍が市中を闊歩していたということを思うとこの間の変わりようには驚くばかりです。

明治期はとにかく列強に追いつけとばかり、植民地になった訳でもなく、民衆が蜂起して革命を起こした訳でもないのに自国の文化を捨ててまで洋風文化を必死に吸収しようとしてきました。それも想像を絶するスピードで。

この時代をひと言で言うと「見よう見まね」ではないかと思えます。建築もご多分に漏れずこの「見よう見まね」の嵐に巻き込まれます。西洋から建築の専門家を招聘し、中央官庁の建築を請け負わせ、それらの建物を地方の大工の棟梁たちが見聞し、各々の棟梁たちの解釈で各地に“洋館らしき”建物を次々と建てました。ろくな設計図も建築図面もなくひたすら想像力と卓越した技術力で短期間に数多くの洋館を建てます。洋館の本質を知らないことからそれらの中には時々奇抜な建物を見ることができます。

「擬洋風建築」と呼ばれている建物です。



鹿鳴館

## 三越創業350周年記念特集 日本の洋館

学校建築としては初めて国宝に指定された松本にある「旧開智学校」などは正面玄関上に龍と天使が飾られているといった摩訶不思議な意匠で「和洋折衷」どころか「和洋唐折衷」の趣です。

明治期は「とにかく西洋風に」との大号令で日本各地に洋風建築が乱立します。

まず「形から入る・・・」という訳です。木造あり、煉瓦造りあり、石造りあり、と使われている素材は様々ですが、その出来映えに外国の建築士も驚いたといえます。それは江戸期における職人たちの技術力が相当なレベルに達していたことの証明でもあります。

特になんでもコテ一本で様々な装飾パーツを造ってしまう左官職人の技術の高さに注目が集まったようです。

東京にある明治時代の代表的建築物としては、日本銀行、迎賓館赤坂離宮、東京藝術大学奏楽堂、東京国立博物館表慶館、綱町三井倶楽部、そして東京駅などがあります。

これらの主要な建築物は、明治政府が招聘した建築士のジョサイア・コンドルとその弟子たちによるものです。辰野金吾が日銀と東京駅、片山東熊が迎賓館を手掛けます。コンドルは現在の帝国ホテルの隣に建てられた「鹿鳴館」を設計、三井倶楽部、旧岩崎邸も彼の設計です。

各地に洋館が出現した時、当時の人はそれまでの日本建築と大きな違いがあることに当然驚いたことでしょう。そのひとつが階段です。各地の城や古い日本家屋をご覧になった方はご存知だと思いますが、日本の家屋の階段は真っ直ぐで急勾配です。



松本 旧開智学校



旧岩崎邸

昇降するための物ですから実用一辺倒で何の問題ありません。しかし洋館の階段は直角に曲がりしかも手すりなどに装飾が施されています。洋館の階段は、例えば館の主人が階段を降りながら階下の客に挨拶をする、といったようにある種の演出のための道具立ての役割を担っているからです。



また照明器具にも豪華な装飾が施されており、日本家屋に比べ装飾性に富んだ洋館の美しさに目を見張ったことでしょう。その照明器具を吊るす元の装飾を「中心飾り」といい、西洋では「型」を使って成形しますが日本の左官職人はコテ一本で複雑な飾りを作ってしまいます。そのため日本の洋館では部屋毎に中心飾りが異なっています。



東京以外にも各地に優れた洋館が残っています。特に明治期に開港した港町である横浜、神戸、長崎、新潟、函館等に多く見られます。函館でも多くの洋館を見ることができますが、特に町家の建物に特徴があります。それは1階が和館、2階が洋館という造りの和洋折衷の建物で、その形態の建物がいくつか並んで建っているのです。また、札幌にも独特の形状の優れた洋館が残っています。



函館 上下和洋折衷建築



札幌 旧北海道庁



札幌 豊平館

## 三越創業350周年記念特集 日本の洋館

明治初期の洋館の特徴として、左右対称、塔屋、車寄せ、曲がり階段、手すり装飾、上げ下げ窓の縦長のプロポーション、中心飾り、照明器具・・・があります。

特に学校、役所、警察署などの公的な建物に共通した要素です。また、主要都市に残る刑務所も洋風建築で統一されていて、全てひとりの建築家に委ねられます。その建築家が山下啓次郎で、東京駅や日銀を設計した辰野金吾の弟子であり、孫は世界的に有名なジャズピアニストの山下洋輔です。



これは「美しすぎる刑務所」と言われている奈良刑務所で、近々この建物は日本初の「監獄ホテル」に生まれ変わるのだそうです。ちょっと泊まってみたいような気がします・・・



話を三越に戻します。1908年(明治41年)、それまでの土蔵造りの建物から総3階建の本店仮営業所を建てます。総面積1,853㎡、当時としては珍しい3階建てでした。

その後1914年(大正3年)の9月に完成した新館は、地下1階、地上5階、塔屋部6階の建物で、面積は2,043㎡、当時スエズ運河以東最大の建築と言われました。



# 三越創業350周年記念特集 日本の洋館 – 各地の洋館



仙台 第二師団兵舎

各地に残る洋館のほんの一部です。  
貴重な洋館が消えつつある昨今、近くの  
洋館を訪ねてみてはいかがでしょうか。



旧名古屋控訴院



旧新潟税関



広島陸軍被服支廠倉庫



大阪中央公会堂



松山 萬翠荘



高松 旧御殿浄水場事務所